

かたつむり通信



第14号

発行:2014年12月5日
しながわチャイルドライン
運営委員会
品川区東大井5-14-3
TEL/FAX
03-5462-2868

「ドキュメンタリー映画「隣る人」上映とトークの会を終えて

しながわチャイルドライン代表理事 浅川 周二

今回の「隣る人」の上映には昨年の水谷修氏の講演会の時と同じく、品川地区の子どもに関係する多くの団体のご協力により、実施する事が出来たことを心から感謝いたします。

また上映後、施設の理事長、菅原さんと企画者の稲塚さんのトークも素晴らしく「隣る人」を理解する上で多いに役に立ちました。

開催後のアンケートを読みますと、私の願いであった「隣人を自分のように愛しなさい」の言葉を理解して、「隣る人」になりたいと思う人が、たくさん増えたように思います。

「隣る人」になることは、難しいことではなく、隣る人の撮影された「ひかりの子どもの家」の菅原さんの言葉のように、何かをしてあげる、何かをしてもらう、という上下関係ではなく、『ただ愛をもって、そばにいてあげること』だけで良かったのです。

子育て中の方々から、「日々感じていること、思っていることで、それでいいんだと背中を押して頂けた」との声がありました。

「隣る人」の上映を通して、子どもに寄り添う事を学び、たくさんの良いメッセージが伝えられました。

今後とも、「隣る人」を増やしていき、子どもたちがより住みやすい社会を、作りたいと思います。

本当に有難うございました。

~~~~~ . ~~~~~ . ~~~~~ . ~~~~~ . ~~~~~ . ~~~~~ . ~~~~~

・『隣る人』は児童養護施設「光のこどもの家」で暮らしに密着してその葛藤の日々、8年間を描いた映画です。

今年の7月に品川区区民センターきゅりあんで「ドキュメンタリー映画『隣る人』上映とトークの会」をしなチャイと区の子育てに関するグループの方々との実行委員会で、品川区社会福祉協議会・品川区・品川区教育委員のご支援も得て、開催いたしました。

昼・夜2回の公演に約500人ちかい、若い方から地域の保護司の方など、また遠方からも、おいでいただきました。

・ゲストで映画の企画者稲塚由美子さんの「児童養護施設の話だけでなく、お年寄りのことも、友達同士だって『誰もひとりでは生きられない』と思う。誰かが誰かをひとりの生きている人間として目をやる、心をかける。そのことが人を生かすことになるということを感じていただければいいなと思います」という言葉が印象的でした。

### ◎ご支援ありがとうございます。

《2014年度賛助会員及びご寄附いただいた方・11月16日現在》・・・敬称は省略させていただきました。

本道秀雄・平間早苗・丸山和子・遠藤芙美子・須貝幸宏・高橋敦子・金子みゆき・高野陽一・松澤麗子・松澤利行  
米川大輔・石田ちひろ・岡崎・荻原・槌谷・片桐・黒瀬義宣・北島浩之・北島まりあ・上野京美・野澤澄也・  
石津忠雄・大塚悦子・井上耕一・横井淳孝・中川治子・保科うた子・菊池操・岡崎和代・清水佳子・米川宏一  
矢吹陽子・徳江安子・浅川周二・浅川ハマエ・沖山弘隆・村上交周・大村毅・橋本政徳・長田豊平・羽石公子  
様の方々に会員一同、心より感謝いたします。

《2014年度助成金・11月26日現在》

一般社団法人昭和会館・花王ハートネットクラブ・株式会社花王石鹸・東京Ⅲゾンタ・品川区社会福祉協議会・イオン(株)  
(株)正武堂

～いつも温かい応援、本当にありがとうございます。～

## ◎ 2014年度 全国研修会 開催されました ◎

### 【テーマ】:子どもに信頼されるチャイルドラインをつくるために

【日時】:2014・10月25日(土)26日(日) 【場所】:国立オリンピック記念青少年総合センター

【参加者】=第1日目…徳江・矢吹・北島 第2日目…矢吹・米川・金子・池田

25日…全大会・交流会

①<子ども参加企画> 子どもの意見を聴こう!

②自殺予防研修

「命の喪失と真実、そしてつなぐ活動へ～大河内清輝君が私たちに教えてくれているもの～」

26日…分科会

①組織を持続させる力

②現場で生かせる研修を組み立てる

③チャイルドラインのアドボカシー活動～理論と実践

④協働によるファンドレイジングの実現と効率化



徳江安子

### 【報告・感想】

#### ●全国研修報告 10月25日(土) 全体会

・13時半～15時

①子どもの意見を聴こう

・15時20分～17時

②「命の喪失と真実、そしてつなぐ活動へ ～大河内清輝くんが私たちに教えてくれているもの～」

①<子ども参画企画>子どもの意見を聴こう!

7名の小中高校生の登壇にて、子どもの意見を聴くことが出来ました。チャイルドラインを知っていると思っているのは、私たちメンバーだけ。子ども7名中3名は、チャイルドラインの存在を知らなかったという。実際に子どもが、チャイルドラインをどのように感じているのか話してもらえて、参考になりました。ただ聴くだけでなく、時にはアドバイスもしてほしい、また、聴いてもらうだけで安心できるなど、年齢や学年によって、思いは様々だということも分かりました。

広報関係にもう少し時間をかけ、学校に説明訪問に行ったりと、カードをただ配布するだけではない、もっと身近なものに感じてもらえるように動いていく必要があると痛感しました。

②自殺予防研修「命の喪失と真実、そしてつなぐ活動へ

大河内君のお父様は、自殺に追いやられた我が子へ、何もしてあげられなかった、と親としての無力さを今だに悔いている心境を話してくださいました。

ご自分の気持ちもまだ整理が尽ききれていない中、同じ思いをしている子どもたちのために、苦しい状況の中、いろいろな所へ出向き、講演をしておられる姿に頭が下がりました。チャイルドラインが、ただ話を聴き、少しでも勇気を与え、解決に繋がる一つの場所になれなかったのかと、心痛みました。

清輝君の無念の死を、無駄にしないよう、心の支えになる活動に繋げなければいけないと思いました。

#### ●全体会に参加して

参加の7人の子どもさんの発言の中で印象的だったことを書いてみます。

- ・聴いてほしいが、こんな風に見てみたらと言ってくれたら嬉しい。
- ・何か言って欲しいけれども、押しつけられるのは嫌だ。
- ・通じなかった電話もあるので手紙とかメールがあったら。
- ・自己否定をするので、ありのままの自分でいいよと聴いてほしい

北島 仍子



- ・自分が解らないから電話しているのでアドバイスは欲しい、がアドバイスすることで会話が切れることもある。
- ・その子にとっては人生の第1歩なので丁寧に話を聴いてください。
- ・低学年は初対面の人と話すとおろおろする。
- ・知らない人だからこそ話せる。人生経験のある人と話しているので安心。
- ・悩んでいることなどの講習会があったらよい
- ・学校でカード配られているが、チャイルドラインの説明会があるとよい。学校に人が来たら印象に残るので。
- ・回線が混んでいてつながらないというイメージがある。
- ・悩みや、相談を聴いてくれるところ ・気楽に話せたらいいな。

\*子どもたちの率直な意見に耳を傾け、真に子どもたちに寄り添う活動目指していけたらと想いながら聴きました

## ●2014年度 全国研修 参加報告 10月26日(日)9:00～16:00 米川 節子

◇参加分科会

②現場で活かせる研修を組みたてる。

◇講師:佐藤協子さん 社会福祉法人埼玉いのちの電話 研修委員長

はじめに参加者全員から、各CLでの問題点や情報、討議してほしいことなどを発表・提案していく、そして担当者がその内容を問題点毎に色分けして書き出していく。

次に、あらかじめ配られていた番号毎の班に分かれグループディスカッションに入っていく。

始めに出されていた問題点や情報を検討しながら、模造紙に書き出しまとめていく。

最終目標は『現場で活かせる研修を組みたてる』事。

### メンバー紹介

- 1.CL あいち 茶谷さん 養成研修・受け手研修が主な担当
- 2.CL ながの 佐藤真由美さん 受け手・時々支え手・今回が初参加
- 3.CL 奈良 喜多 俊幸さん 時々支え手・基本的には組織全体の調整など(元教育長)
- 4.CL 武蔵野 保坂みどりさん 受け手・支え手・研修・運営全体
- 5.CL 北九州 永松さん 研修担当
- 6.しながわチャイルドライン 米川 研修部・支え手・受け手・運営委員

研修の組立をする前に自己紹介をしながら、それぞれのCLがどんなことをやっているか、特徴的な活動なども紹介していく。また、継続研修に出ない(出られない)会員が多いという問題点の対策や工夫している事なども出し合っていく。

### いくつか特徴的なラインの紹介

《CL 奈良》

- ・いのちの電話の中に複数のラインが入っている組織(すこやか tel ・ 青少年 tel 等)  
これらの電話の受け手は主に退職教員。
- ・チャイルドラインの受け手は大学院生、心理学部の教授の推薦を受けた者。
- ・養成研修は半年かけて、月2回ずつ。
- ・支え手は、いのちの電話の研修を受けた者。また2ヵ月に1回、事例研修が必須。
- ・元校長とかは経験で話してしまったりすることなどが多い。また子どもの話についていけない人は電話に出てはいけない。(…運営等に関わっていく。)

## 《CL あいち》

- 4年にいっぺん更新している。更新するためには実践講習を受けることが条件。
- 養成研修では、講義中心の前半と実践講習中心の後半との間を少し開けて、受け手をやりたいかどうか、向いているかいないかを考えてもらっている。ここでできないということになれば、後半の講習は受けずに終了。(割と高額な参加費も返さないが、最初に説明しているので文句は出ない。)
- 養成研修後に、受け手に合う人と合わない人の振り分けをしている。(事前に説明している)
- 受け手、支え手は輪番制でやっている。
- 受け手の定年制がある。奈良→65才 あいち→60才
- 受け手、支え手はやらずに運営、事務局などのみの仕事をしている。研修は同じ。

>>>>> 昼食をはさんで、研修の組立の実践に入る。 <<<<<

5グループがそれぞれ話し合った内容の研修を模造紙に書く。

発表の時間になると、プログラム形式が1番多く、寸劇を交えながらのグループが2つあり、大きな笑いがあり盛り上がった発表会になった。

講師から組立にあたってのポイントが、話し合いの途中で出されるなど、あまりの熱心さ、盛り上がり、運営担当者が講師からのコメントを言ってもらうことを忘れてしまったとか。

全国、いろいろ抱えている問題が多くあっても、CLに関わっている人間は前向きな人が多いのかとあらためて感じた一日だった。

## ●チャイルドライン全国研修レポート(チャイルドラインのアドヴォカシー活動～理論と実践)

講師 チャイルドライン支援センター理事の田澤さん

池田 真里奈

子どもの人権についてのワーク。

人権とは何か? 「生まれながらの当たり前なもの」「誰もが持っているもの」「邪魔されない」「お互いに保証されるべきもの」という様々な意見が出ました。

田澤さんより、人権は普遍性、不可分性、不可侵性、アカウントビリティと説明がありました。児童の権利条約は第二次世界大戦が終わったことをきっかけに作られました。二度と足を踏み込んではいけぬ領域、子どもを犠牲にしてはいけぬという思いがこの条約を作りました。

そして子どもの権利原則の中でもっともチャイルドラインに直結したもの、12条「意見表明権」子どもたちの声を聞くことの重要性を政府訳を元に学ぶ。

意見を聞く場所がなければ子どもは意見を言えない、条約にははっきりと「(児童は)聴取される機会を与えられる」と記載。支援の3本柱「直接支援、コミュニティ強化、政策提言」の3つが挙げられました。チャイルドラインは直接支援にあたり、特に子どもにとって影響のある重要な活動であると学び身が引きしまりました。

## ●全国フォーラム 201410.26 組織運営グループ「組織を持続させる力」—人— 金子美枝子

そもそも NPO 組織は

3D(できることを、できるときに、できるだけ)で拘束力がない。

しかし、企業や行政のできないことを成し遂げることもある。

組織内に上下関係がなく、活動は自由。地域に密着した活動、各会独自運営方法を持つ。

・CLの強み・・・「子どものため」というミッションで会員間が結びつく、国内外のネットワーク。

こどもの生の声を受電し、現状の課題をしる。社会的信頼度が高い。

・CLの弱み・・・(課題)資金、活動場所、人員の確保、会の運営

・仕組みや役割分担を明確にすることで課題(弱み)に取り組む

◎会員

CLのミッションに惹かれて集まってくる。ミッションの実現に参画・貢献しているという達成感が必要。

◎受け手

直接電話をとり、記録をかく。活動の中で自らが達成感を感じる。(研修を受け自己を磨く)

◎支え手

安心の場作り(常設場)。受け手の育成。受け手が育つことで達成感を感じる

支え手自身が研修をうけ(FB力を養う)クリアリング(SVの活用)

◎スタッフ

運営 有給であるが市場より安く働く。達成感が必要

◎役員

会の安定拡大 他団体との協力体制作り 資金援助先探し やりがいを持つ

・受け手を増やす

養成講座の集客: 広報方法、内容(参加者間、運営側との人間関係の構築も要)

開催日時等の工夫 会員活動の継続: 転居・卒業等の退会はやむない。活動の達成感が継続の力

・運営の担い手を増やす

受け手と支え手の数のバランスも大切。活動メニューを増やし適材適所に配置。

役割ごとの達成感、モチベーションの維持(SV活用)

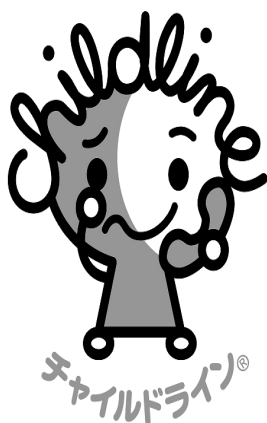
・反省点(課題)を共有しあい次回への違いを作る。

受け手、支え手、運営、各人が研修をうけ自己研鑽を深める。ワーク活用で気づきを得るのも一つ。

●平成26年も、1 か月となりました。しながわチャイルドラインは多くの方の支えによりもうすぐ 15 周年を迎えます。昨年は「夜回り先生水谷修氏講演会」今年は「隣の人上映会」来年 7 月は「副島賢和先生講演会」を予定しております。

●当面の課題は事務所探しです。お心当たりがありましたらご紹介ください。

☆皆様のご支援に心より感謝いたします☆



**チャイルドラインとは?**

チャイルドラインは、18歳までのこどもが、悩んでいることや誰かに聴いてもらいたいことなど、どんなことでも 話すことのできる電話で、全国各地にあります。子どもたちのひとときの心の居場所です。

**しながわチャイルドラインの歩み**

しながわチャイルドラインは13年前に活動を始め、10年前から毎週金曜日に常設開設するようになりました。毎週80本以上の電話がかかってきて、子どもの話しに 真剣に耳を傾けていますが、取りきれない電話も少なくなく・・・

\*ただいま、**来年に向けて、水曜日のライン開設を検討しています。**

毎週金曜日 開設 4時～9時 0120-99-7777  
4時～7時 5781-8144 7時～9時半 3494-8872